

自主事業報告書

事業名 新潟市バイオリサーチセンター

(1) 実施状況（実施日時・利用人数等）

実施期間 2021年4月1日～2022年3月31日

1. 企業の現況に関する事項

(1) 事業の経過およびその成果

2020年より全世界を脅かしている新型コロナウイルス（COVID-19）感染症は、未だに収束の気配が見込めず、感染拡大を巡る不確実性が企業の活動を委縮させ、国内の経済活動の低迷が懸念されております。このような状況の中、以下の通り事業を進めました。

（主な事業内容）

① 産官学連携推進事業

昨年度同様、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、多くの方が集まる展示会や各種会合などイベント会場へ足を運ぶことが減少しました。これにより、オンライン型のイベント開催が主となり、コロナ禍におけるビジネスの進め方にも大きく変化を与えた年でした。また、企業から、機能性表示食品の届出に関する相談、臨床試験実施に関する技術的な相談が多く見られました。

○ 包括連携事業

新潟薬科大学との包括連携協定のもと、県内外の企業からの機能性食品に関する共同研究・分析依頼等を含む問い合わせや、研究者からの相談に対応いたしました。また、フードメッセで展示されたプロジェクトに関する問い合わせ窓口を担当いたしました。

○ 新潟市健幸づくり応援食品認定制度支援

昨年度同様「新潟市の健幸づくり応援食品認定制度」の申請に係る相談窓口を展開し、技術的な相談内容に対応いたしました。また、中小企業からの機能性食品の開発や表示に関する相談があった場合には、「健幸づくり応援食品認定制度」のご紹介をいたしました。

② 機能性食品評価事業（ヒト試験）

今年度、臨床試験については5件実施し、うち昨年度実施した試験の監査対応が1件、当社主導の臨床試験が3件、新潟大学主導の臨床試験サポート業務が1件という内容でした。

また3件のうち2件は、認知機能改善効果やストレス系の評価試験であり、新たな評価項目の試験が実施出来たことは、技術的な更新が図れたといえます。加えて、新潟大学主導の臨床試験サポート業務を実施したことにより、新たな業務展開の幅が広がりました。なお、今年度実施した臨床試験5件の内容については、以下の通りです。

○ FHCT-2020-01D 試験（M社）

試験食品摂取による血糖上昇抑制効果試験の監査対応を行いました。

○ FHCT-2020-03D 試験 (B社)

試験食品摂取によるストレス評価試験を行いました。

○ 試作米飯の認知機能改善効果の評価試験 (新潟薬科大学)

新潟薬科大学研究プロジェクトの外部委託機関として参画し、試験食品による認知機能改善効果及び血糖上昇抑制効果の試験を行いました。

○ 咀嚼試験 (新潟大学大学院医歯学総合研究科)

ウェアラブルデバイスを用いて“噛む”を行動変容することによる食生活の適正化を探る試験のサポート業務を行いました。

○ 米粉クラッカー摂取による血糖上昇抑制効果試験 (秋田県立大学)

クラッカー摂取後の血糖値上昇への影響の確認試験を行いました。

【新型コロナウイルス感染拡大による本事業への影響】

一旦は収まりを見せた新型コロナウイルスによる感染状況も、今年に入ってから再度感染が拡大し、現在も高止まりが続いており予断を許さない状況です。なお、具体的な影響は以下の通りです。

- ・ 県内外のイベント自粛によって、人的交流が激減し、特に大学の研究者や企業の研究者との交流が減りました。また、打ち合わせや会議等もオンライン会議へと変化し、効率は増したものの積極的なコミュニケーションが取りづらい環境となりました。
- ・ 新型コロナウイルス感染症のクラスター発生への懸念を払拭するため、感染予防対策用の備品（消毒剤、飛沫防止パーティションスタンド、抗原検査キット等）の購入が必要となり、試験運用設備を整えるための支出が増加しました。
- ・ 試験会場での新型コロナウイルスの感染拡大を防止するために、各種対策備品を設営する必要があり、従来の設営作業よりも時間が掛かるようになりました。また、試験会場の収容人数の関係で、従来は1日で試験実施可能でしたが、数日間必要となり、コストの上昇とスケジュール調整が難しくなりました。
- ・ 臨床試験の会場として使用している施設は行政管轄であり、新型コロナウイルスの感染状況によって使用禁止になった経緯があります。これにより、施設が使用不可になった時の対策が必要となり試験実施のための作業が煩雑になってしまいました。
- ・ 試験参加者に関しては、新型コロナウイルス感染症への不安による応募減少や試験途中での辞退者も出ました。
- ・ 試験実施におけるクラスター発生の回避策として、血糖の試験では対応できる被験者数を1日16名までといたしました。また、事前検査日では試験参加者も多く、3密対策として試験日を2日に分け実施することといたしました。そのため、効率が悪くコストの掛かる運営となってしまいました。

③ 食品安全事業

今年度も引き続き、新潟薬科大学食品安全学研究室より、消毒剤の評価試験の依頼を受けました。具体的な内容は、以下の通りです。

○ 殺菌効果試験（新潟薬科大学）

ノロウイルス等が起因する食中毒対策薬に関する研究を目的として、殺菌抗ウイルス薬剤の評価試験を、昨年度同様に実施いたしました。

○ HACCP関連（M社等）

昨年同様、HACCP計画立案に伴う電話やメールによる相談の対応として、月額単位で料金を頂くプランを今年度も継続していただいております。その他、N社より製品の品質管理上の分析についても、昨年に引き続きご依頼を頂き、新潟薬科大学の協力のもと実施致しました。

④ 新潟市バイオリサーチセンター管理運営

今年度末の入居率は94%ですが、すでに入居希望者がおり、次年度には入居率100%になる予定です。また、当社の経費削減計画の一つとして挙げている、センター内の研究室の利用の取止め後の入居者についても、期間をあけることなく次の入居希望者がいらっしゃる状態です。

センターの管理運営についても、新型コロナウイルス感染予防の一環として、館内の会議室の消毒やトイレ玄関等に消毒液を置いて、感染対策に努め対応しております。

⑤ NBRP 会員事業

今年度末の会員数は、25社、会費収入は、1,090,920円となりました。今年度も、新型コロナウイルス感染拡大により、セミナーやワークショップ等のイベントを行う事が困難でした。今後は、引き続きオンライン型セミナーなどコンテンツの整備を目指します。また、当社の業務全般を、会員企業向けのサービスとして運用していくことも視野に入れて進めてまいります。

（2）当社の対処すべき課題

今年度も新型コロナウイルスによる感染拡大が収まらず、現時点では収束が見込めない状況です。昨年度からの経済活動低迷の状況下、当社としては、経費削減計画も次年度早々には完了する予定となっております。今後は、スタッフと共に創意工夫を凝らし、積極的な営業活動に専念し、以下の課題に挑戦したいと存じます。

【産官学連携推進事業】

- ・ 企業からの様々な課題に対応できる体制づくりを、新潟薬科大学産官学連携センターと共に構築する。
- ・ 新潟大学医歯学総合病院コワーキングスペースの活用により、新潟大学医学部との協力体制を図る。

【新潟市バイオリサーチセンター管理運営事業】

- ・ Webを活用した入居者募集のPRを行う。
- ・ 新潟薬科大学との情報共有を積極的に実施し、センター利用者の利便性向上を図る。
- ・ 新潟県健康ビジネス協議会をはじめとする、各種企業や団体のセミナー・その他のイベントなどで、新潟市バイオリサーチセンターの紹介を企画する。

【機能性食品評価事業】

- ・ 新潟薬科大学の産官学連携推進センターとの連携を強化し、成分分析から臨床試験までの一貫したサポートを進める。
- ・ 新潟大学医歯学総合病院コワーキングスペースの活用により、医学系研究者との交流を図る事で、臨床試験の新たな評価項目及び評価方法などのノウハウや、健常者を対象とした臨床研究サポート業務の獲得を目指す。
- ・ 医療検査実施機関の増設を念頭に、より円滑な試験運営体制を確立する。
- ・ ボランティアバンクの整備により、多様な試験に対応できる体制を確立する。

【食品安全事業】

- ・ 昨年に引き続き、HACCP 導入における電話やメール相談の月額プランのパッケージ化を進める。
- ・ 専門家との協力体制強化と専門機関との業務提携を進める。

【NBRP 会員事業】

- ・ HACCP 導入に関するショート動画などを作成し、会員専用のコンテンツの提供を進める。併せて、必要とされる情報のコンテンツを企画する。

新型コロナウイルスによる感染拡大が収まらない中、今後もこの環境の変化を捉えつつ、安定的な収益確保を目指して参ります。

何卒従来にも増してご支援賜りますようお願い申し上げます。